

ヌエック News

National
Women's
Education
Center News



2005/5/1
第109号
国立女性教育会館
ISSN 1343-4926



「都幾川堤の春」
(撮影者：嵐山町写真クラブ 四宮直樹／撮影場所：嵐山町二瀬)

も く じ

○天野正子さんからひとこと.....	2	・ 女性の教育推進セミナー	7
○会館をご利用いただいた方の声	3	・ カンボジア・ジェンダー統計の分析研修	8
○事業予告・募集		○情報ネットワーク	8
・ 平成17年度実験プログラム「漱石とその妻鏡子」.....	3	○ことばの基礎知識(科学技術分野への女性の進出).....	9
・ 平成17年度子育てネットワーク研究交流協議会		○ボランティアコーナー	9
「子育てネットワークinヌエック」	3	○お知らせ	
・ 女性関連施設管理職セミナー	4	・ 寄附金受入の報告	10
・ キャリア形成支援推進セミナー.....	4	・ 寄附金のお願い.....	10
・ 男女共同参画のための女性学・		・ 施設案内	10
ジェンダー研究・交流フォーラム	4	・ 利用案内	10
○平成17年度事業計画	5~6	・ 主な利用団体	10
○事業の実施報告		・ 展示コーナー	10
・ 第3回実験プログラム「三ヶ島霞子の生き方」.....	7		



平成17年度 国立女性教育会館総合テーマ
『男女共同参画社会の形成をめざした「学び」と「活動」』

天野 正子さんからひとこと

「評価の時代に、自信をもって挑戦を！」

21世紀は「評価」の時代です。どの公的な機関も、活動の改善と充実をめざし、第三者の視点による評価とその結果の公表をさけることはできません。

その「評価」の視点からみると、昨年、国立女性教育会館（以下、会館）が直面した青少年施設との「統合問題」は、私たち運営委員会にとって衝撃的でした。運営委員会の役割の一つは、第三者の目による会館の諸活動の評価にあります。その評価と行政改革をすすめる政府側の評価との大きなギャップ、評価の視点や基準の違いが明らかになったからです。

統合問題が浮上したとき、運営委員会がすすめてきた2001年から2003年度までの会館の活動に対する外部評価は、「まとめ」の段階に入っていました。統合案に対して運営委員会がいち早く反対し、単独存続を求める要望書を関係機関に提出してきたのは、あとでふれるように会館が果たしている独自の役割と実績に対する、その外部評価の結果があったからです。

統合案の基底にある評価の基準は、なによりも施設利用率や事業の効率化という、数量的な成果にありました。もちろん、運営委員会もその大切さを否定するものではありませんが、その基準だけでは会館の実績を十分に評価することはできない。私たちの評価の視点は、なによりも会館が女性のエンパワーメントや男女共同参画社会の実現にむけて、どこまで「求心力の中心」、いわばナショナルセンターとしての実質を備えているかにありました。活動に即した質的評価です。

そうした視点からみると、①国内各地だけでなく、アジア・太平洋・アフリカからのリーダを対象に先導的な研修活動を展開し、各地での波及効果がみられる、②女性や家族に関わる国際比較調査や国際的な研究ネットワークづくりへの堅実な取り組みがみられる、③ジェンダーに関する情報の収集・発信・データベース化が年々充実され、国内外の情報センターとしての役割を果たしている、④国内外のNGOやNPO、教育関係者の交流やネットワークづくりが効果的に図られている——というのが、高く評価された会館の活動でした。とりわけ、国内外で展開されている活動を「人」や「情報」、「調査研究」というツールで結びつけ、その充実をはかってきた点に、他の機関では代替できない、ナショナルセンターとしての会館に対する高い評価があったのです。

会館の活動に対しては、注文ももちろんあります。①社会の動向や各地の女性関連施設のニーズをより敏感に汲みとり、「センターのセンター」としての役割をとってほしい、②広い意味での女性教育に関わるアーカイブセンター（文書館）をたちあげてほしい、③海外の研修参加者のフォローアップを充実させ、女性教育の分野で「日本の顔」と評価される活動をすすめてほしい、そして、④もっと効果的な広報活動を展開して、より多くの人びとに会館の存在を知ってほしい、などなど。

これらの注文は裏がえせば、会館に対する大きな期待や信頼でもあります。この評価の世紀に、自信をもって、果敢に新たな挑戦をつづけてほしい、それが外部評価を担った私の願いです。

プロフィール

現 職 東京女学館大学国際教養学部教授
専攻分野 社会学、とくにネットワーク論、ジェンダー論、教育社会学
所属学会等 日本社会学会監事、日本教育社会学会評議員、社会調査士資格認定機構理事
主な著書 『「生活者」とはだれか』（中央公論社、1996年）
『フェミニズムのイズムを超えて』（岩波書店、1997年）
『老いの近代』（岩波書店、1999年）
『「モノと女」の戦後史』（共著、平凡社、2003年）
『「つきあい」の戦後史——サークル・ネットワークの拓く地平』（吉川弘文館、2005年）外 多数

会館をご利用いただいた方の声

第21回政策・情報学生交流会 代表 鳥居 長英さん(3/14～19ご利用)

今回で21回目(又エックでは3回目)となる政策・情報学生交流会は、政策・情報系の学部にも所属する学生同士の交流。自分が生きるこの社会のこと、学部のこと、なにより自分のことを考える場所です。200名規模の学生が参加するこの交流会では、研修施設・宿泊施設の充実度や料金が気になるところですが、又エックはその条件を十分満たしていると思います。学生には特にお勧めの施設です。武蔵嵐山は遠いという意見もありますが、自然が豊かな環境は、長い時間をかけても来る価値があるところだと思います。

フラワーサークルタンポポ 代表 中村ヒロミさん(3/24ご利用)

国立女性教育会館の近くへ越してきてから、フラワーサークルの活動を始めました。活動の場所として近くの公共施設や民間施設を当たってみましたが、条件に合うところがなく、又エックの施設が使えと聞き、訪ねてみました。又エックが何をしているところかもよく知らず、最初入るのに非常に勇気が要りましたが、入ってみると職員の方も親切で、今では月に2回の割合で利用しています。

料金も非常に安く、全国の成人を対象としただれもが使える施設ですので、今後も利用していきたいと思っています。



中村ヒロミさん

事業予告・募集

平成17年度実験プログラム「漱石とその妻鏡子」

昨年度からスタートした実験プログラムは、今年度は年間6回程度の開催を予定しています。内容は、「女性の生き方」、「家族」、「健康」を含む、より広いテーマを取り上げることにしています。

第1回のプログラムは「漱石とその妻鏡子～漱石文学の源を探り、嵐山の初夏の自然に遊ぶ～」です。詳細は次のとおりです。

日程及び内容：5月20日(金) 18:30～20:30

講演「漱石とその妻鏡子」 講師：大東文化大学名誉教授 渡邊澄子氏

5月21日(土) 9:00～12:30

講義及び自然散策「会館周辺の初夏の植物」 講師：樹木医 掛川繁氏

会場：国立女性教育会館とその周辺

参加費：3,600円～4,200円(宿泊費込、食費別)

参加募集人数：30名

詳しくは事業課にお問い合わせ下さい。ご参加をお待ちしています。

平成17年度子育てネットワーク研究交流協議会 『子育てネットワークin又エック』

5月28日(土)～29日(日)に、「子育てネットワークin 又エック」を、国立女性教育会館で開催します。子育てネットワークは、地域一体となった子育て支援を行うために、子育て中の親や子育てサークル、子育て支援団体、行政、関係機関などを結ぶことで、男女が共に子育ての責任を果たし、子育ての負担が母親のみに集中する状況を緩和し、さらには、子育てのしやすいまちづくりや広く地域づくりの役割を担っています。

平成15年度から数えて3回目となる今回は、子育てネットワークが現在の子育て環境をどのように変え、親や子ども、そして地域にどのような未来を拓くのか。分科会や、テーマ別討論、ワークショップなどを通して、子育てネットワークの役割と意義、その可能性を考えていきます。参加者のお子さんを対象としたプログラムや保育、相互の情報交換や交流の機会を交え、1泊2日の日程で実施いたします。

子育てネットワーク関係者、行政担当者、企業関係者、子育て支援に関係する専門家、経験の有無にかかわらず関心のある方の参加をお待ちしています。

事業予告・募集

女性関連施設管理職セミナー

6月15日(水)～17日(金)の間2泊3日で、公私立女性会館・女性センター、男女共同参画センター等の所長、館長等の管理職を対象（在職年数は問いません）に、男女共同参画社会の形成に向けた女性のエンパワーメントの拠点としての女性関連施設の役割を認識、管理・運営に関する専門的な研修を実施します。

内容は、「国の男女共同参画政策」「女性関連施設の役割」「男女共同参画の視点」「女性情報」「国立女性教育会館の事業の活用」等についての講義・討議、「管理・運営・評価」の課題解決に向けた方策・工夫等についての分科会などを予定しています。

詳細は、事業課までお問い合わせください。

キャリア形成支援推進セミナー

7月27日(水)～29日(金)2泊3日、教員・指導主事、女性関連施設・生涯学習施設職員等、キャリア形成を支援する立場にある方を対象に、男女共同参画の視点からキャリア形成支援に関する実践的研修を行います。

「キャリア」といえば、職業的なものを連想される方も多いかと思いますが、ここでいう「キャリア」の概念は、「職業生活にとどまらない社会的活動全般に関わるもの」です。文部科学省の「キャリア教育総合計画」や内閣府の「チャレンジ支援」に示されているような、まさに国の喫緊の課題を取り上げ、学校や地域でキャリア形成をどう支援するかをテーマに講義・演習・ワークショップ等を行います。今年度は、「教員向けのキャリア教育コース」や「施設職員向けのキャリア形成支援コース」に分けての実施を考えています。女子高校生向けプログラムの実践例や女性関連施設におけるプログラム実践例など、「会館」の調査研究の成果をいかした具体的なプログラムも提供します。

詳細は、事業課までお問い合わせください。

男女共同参画のための女性学・ジェンダー研究・交流フォーラム

8月26日(金)～28日(日)の間、2泊3日で「男女共同参画のための女性学・ジェンダー研究・交流フォーラム」を開催します。

今年も昨年同様、多様な分野で活躍している方々が一堂に会する機会を提供します。

昨年は全国から1,863名が参加し、男女共同参画社会の形成に向けて自らの意思で社会に参画、社会を変えていく課題と方法を見出すことをねらいとして実施しました。

また、男女共同参画社会の形成を目指し、全国で研究と実践を行っている100余りの生涯学習の団体・グループがワークショップや展示でその成果を確かめる、施設開放期間ワークショップを同時開催します。

詳細は事業課までお問い合わせください。

平成17年度 国立女性教育会館〔ヌエック〕事業計画

男女共同参画社会の形成を目指した「学び」と「活動」

1. 研修事業（日程順）

事業名	対象・募集人員	時期等	事業内容
(1) 子育てネットワーク研究交流協議会	・子育てネットワーク・子育てサークルのリーダー及びメンバー ・父親クラブ、おやじの会等男性が中心となった子育てネットワークのリーダーやメンバー ・子育て支援関係（福祉部局、保健部局、男女共同参画部局等）行政担当者や関係者 ・幼児教育、保育担当者及び関係者 ・子育て支援に関係する専門家（カウンセラー、医師、研究者等） ・家庭教育アドバイザーや子育てサポーター、子育て支援ボランティア・NPO関係者 ・企業・商店街・マスコミ等の関係者 ・子育てネットワークに関心のある者 100名	年3回 ※国立女性教育会館を含む全国3か所で開催。 国立女性教育会館での実施は、平成17年5月28日(土)～29日(日)	男性・女性が共に子育ての責任を果たし、地域一体となった子育て支援が行われるようにするため、「子育てネットワーク」に焦点を当て、関係者の情報交換・研究協議、参加者のネットワーク形成を行う協議会を実施する。
(2) 女性関連施設管理職セミナー	公私立女性会館・女性センター、男女共同参画センター等、男女共同参画社会の形成に向けた女性のエンパワメントをめざした女性関連施設の所長、館長等の管理職 50名	平成17年6月15日(水)～17日(金) 2泊3日	公私立の女性会館・女性センター等の所長、館長等の管理職を対象に、男女共同参画社会の形成に向けた女性のエンパワメント（力をつけること）の拠点としての女性関連施設の必要と管理運営に関する専門的な研修を実施する。
(3) キャリア形成支援推進セミナー	①教員（幼・小・中・高・大学、特殊教育諸学校を含む） ②各都道府県・指定都市教育委員会・教育センターの指導主事・研修主事 ③各都道府県・指定都市、女性関連施設・生涯学習施設・教育センター等の職員 ④その他、テーマに関心を持つ者 100名	平成17年7月27日(水)～29日(金) 2泊3日	教員、指導主事、女性関連施設職員等を対象に男女共同参画の視点から、青少年などが充実した生き方ができるよう、キャリア形成支援の推進に関する実践的研修を行う。
(4) チャレンジ支援アドバイザー等研修	(1)男女共同参画行政担当職員 (2)女性関連施設相談員等	年1回 2泊3日	男女共同参画社会の形成を目指し、女性のチャレンジ支援を推進するため、男女共同参画行政の担当職員やチャレンジネットワーク支援拠点相談員等を対象に、専門的・実践的研修を行い、資質の向上を図る。
(5) 女性のエンパワメント支援セミナー	(1)行政担当者 ①女性教育・家庭教育行政担当者 ②生涯学習に関する行政担当者 ③男女共同参画行政担当者 (2)女性教育・家庭教育に関する行政関係事業の企画・運営に携わっている者 (3)女性教育・家庭教育に関する団体・グループ・NPO等のリーダー 100名	平成17年11月29日(火)～12月2日(金) 3泊4日	男女共同参画社会の形成を目指し女性の社会参画やキャリア形成を図るために、女性のエンパワメント（力をつけること）を支援する女性教育・家庭教育に関する事業の企画・立案、及び団体・グループ・NPO活動の推進に必要な専門的知識・技術の習得等の実践的な研修を行う。
(6) 国際女性情報処理研修	アジア・太平洋地域の行政担当者・NGOの指導者（日本を含む） 30名	平成17年12月2日(金)～11日(日) 10日間	日本を含むアジア・太平洋地域の行政担当者、NGOの指導者を対象とした情報処理技術の研修を行うことにより、女性の地位向上に必要な知識と技術の習得と、情報ネットワーク構築を目指す。
(7) 女性関連施設相談担当者研修	公私立の女性会館・女性センター等の女性関連施設の相談員 60名	平成18年1月25日(水)～27日(金) 2泊3日	女性関連施設の相談員に対する専門的・実践的な研修を行い、資質の向上を図る。
(8) 配偶者からの暴力被害者支援セミナー（応用コース）	全国のDV支援センター・女性関連施設等において相談員等としての経験年数が2年以上の者 50名	平成18年1月27日(金)～28日(土) 1泊2日	配偶者からの暴力に対する相談事業において質の高い相談を提供できるよう、全国の配偶者暴力相談支援センター・女性関連施設等の相談員として2年以上の経験のある者を対象とした専門技術研修（応用セミナー）を実施し、資質の向上を図る。
(9) 配偶者からの暴力被害者支援セミナー（管理職コース）	全国のDV支援センター・女性関連施設等の相談事業を統括する立場の者、または相談員としての経験年数が10年以上の者 50名	平成18年2月1泊2日	配偶者からの暴力に対する相談事業を関係機関との連携の中で円滑に進めるため、全国の配偶者暴力相談支援センター・女性関連施設等の相談事業を統括する立場の者、または相談員としての経験年数が10年以上の者を対象とした専門的研修（管理職セミナー）を実施し、相談関係者の資質の向上を図る。
(10) 女性の教育推進セミナー	アフリカ、アジア、中近東等の開発途上国で、女性の教育問題に携わっている担当者 9名	平成18年2月～3月	各国の女性教育推進にかかる課題を認識し、その解決に必要な知識や手法を取得し、初等・基礎教育の男女格差解消を考慮した、教育推進プログラム計画を立案できる能力を向上させることを目的とする。
(11) 国別研修＜カンボジア・ジェンダー統計の分析＞	カンボジア女性省職員等 4名	2ヶ月間	カンボジア女性省等省庁職員を対象に、ジェンダー統計の知識と技法の習得を通じて、政策立案・実施・モニタリング能力を向上させ、ジェンダー主流化（あらゆる政策にジェンダーの視点を入れること）の促進を図ることを目的とする。
(12) 国立女性教育会館地域セミナー	全国のDV支援センター・女性関連施設において相談員等になる予定の者、又は相談員等としての経験年数が2年未満の者	平成17年 年3回	男女共同参画社会の形成に向け、全国の女性関連施設等と連携し、男女共同参画の喫緊の課題として配偶者からの暴力に係る相談等をテーマに、これまで会館で実施してきた事業の成果を活用したプログラムを地域の実情に応じて開発・実施し、地域のリーダー等の資質向上を図る。
(13) 社会教育実習生等受入事業	大学で社会教育実習を受講する学生等 各受入期間 数名	会館主催事業に併せて実施する。 (主催事業期間を含む1週間以上)	大学で社会教育実習を受講する学生等を対象として、主催事業の補助業務等の体験学習を通じて、女性教育の現状及び女性教育施設の役割について学習することを目的とする。
(14) 研究員等受入事業	国内外の女性教育を研究する者 適宜応談		国内外の女性研究者等の要請に応じて適宜受入を行う。

2. 交流事業

事業名	対象・募集人員	時期等	事業内容
(1) 男女共同参画のための女性学・ジェンダー研究・交流フォーラム	女性学・ジェンダー研究に関心のある国内外の男女 600名 (内訳) 宿泊(全日程)参加者 120名 日帰り参加者 480名	平成17年 8月26日(金) ～28日(日) 2泊3日	男女共同参画社会の形成をめざし、女性のエンパワーメント(力をつけること)と女性の人権の確立に資する活動を支えるため、女性学・ジェンダー研究と女性のエンパワーメントに関わる多様な研究・教育・実践活動の課題や成果を出し合い、情報交換を行うとともに国内外のネットワークづくりをすすめる。
(2) 女性の学習国際フォーラム	女性の教育・学習に関心のある国内外の男女 100名	平成17年 12月10日(土) ～11日(日)	平成元年より実施してきた「国際女性(婦人)情報処理研修」等の参加者及びその他の海外専門家を招へいし、アジア・太平洋地域のネットワークづくりにおける課題分析を行うと共に、女性のエンパワーメント(力をつけること)を促進するための提言を行う。

3. 調査研究事業

事業名	研究協力者等	達成目標・内容	備考
(1) 女性と男性に関する統計の調査研究	女性学、ジェンダー研究、統計学分野の研究者等	男女共同参画社会の形成に資する女性と男性に関する統計データの内容、提供の方法等について研究し、その成果としてデータ集を作成する。	平成15年度からの3年計画の3年次
(2) 家庭教育に関する国際比較調査	家庭教育関連分野の研究者等	日本及び諸外国の家庭・家族の変化、家庭教育の実態、親の意識、家庭教育に対する支援の実態等を調査し、現代日本の家庭教育の特色や少子高齢社会における家庭教育の課題を明らかにするために国際比較調査を実施する。	平成16年度からの2年計画の2年次
(3) 男女共同参画社会形成のための学習プログラム研究	生涯学習、女性学・ジェンダー研究、国際協力分野の研究者・専門家、女性関連施設職員等	男女共同参画社会形成のための学習の充実に資するために、これまでに会館で実施されてきた学習プログラムを集約するとともに、女性関連施設・国際協力機関等で実施されてきた学習プログラムを収集・分析し、新たな学習プログラムを開発する。	平成16年度からの2年計画の2年次
(4) ヌエック公開シンポジウム	テーマ：若い世代に科学と研究の魅力を伝える 対象：テーマに関心のある男女 期間：平成17年8月 1泊2日	国立女性教育会館の女性教育、家庭教育に関する調査研究で得られた最新の成果を発表し、男女共同参画に向けた調査研究の充実を図る。	
(5) 生涯学習の活用と女性のキャリア形成に関する調査研究	女性教育・生涯学習・女性労働関係分野の研究者、女性関連施設関係者等	女性が持っている能力を向上させ、キャリア形成するためにどのように生涯学習を活用することができるかを調査研究し、女性のキャリア形成支援のために必要な生涯学習プログラムを作成する。	平成15年度からの3年計画の3年次
(6) 多様なキャリア形成を支援するための情報提供システムに関する調査研究	女性教育・生涯学習・女性労働関係分野の研究者、女性関連施設関係者等	女性がさまざまな分野へチャレンジし社会の活力となるため、キャリア設計の参考となる事例(ロールモデル)と、キャリア形成に役立つ様々な学習情報を提供するシステムを構築する。	新規事業 平成17年度からの1年計画
(7) 人身取引とその防止・教育・啓発に関する調査研究	女性教育・社会教育、法律学、情報学、社会政策、国際協力などを専門とする研究者・実務家等	人身取引の撲滅のために日本が果たしうべき貢献を探ることを目的に、日本を目的地ないし経由地とする人身取引の実態を解明し、人身取引を予防するための教育・啓発のあり方を検討する。また、女性のエンパワーメント拠点の国際的ネットワーク化を図る。	新規事業 (科学研究費) 平成17年度からの3年計画の1年次
(8) 女性アーカイブセンター機能に関する調査研究	アーカイブ・女性史・史料保存・女性情報などを専門とする研究者、実務家等	女性アーカイブセンター機能の充実に向け、資・史料の収集基準、収集方法を検討し、女性団体等を通じて資・史料の所蔵状況を調査する。	新規事業 平成17年度からの2年計画の1年次

*女性情報ポータル再構築は、情報事業へ移動

4. 情報事業

(1)女性教育情報センターの運営

事業名	事業内容
(1) 女性及び家族に関する情報資料の収集・整理・提供	女性及び家族に関する情報・資料を収集・整理し、利用に供する。
(2) レファレンス・サービス及び文献複写サービス	来館者又は電話・文書・Eメール等による問い合わせに対して情報提供を行う。また、女性教育情報センター所蔵資料の複写サービスを提供する。
(3) 女性及び家族に関する図書資料の展示	会館が所蔵する資料について、四半期ごとのテーマ展示及び特別展示を行い、女性及び家族の分野の理解を深める。

(2)情報発信事業

名称	掲載内容
(1) 女性情報ポータル再構築	男女共同参画社会形成に資する女性、家庭・家族関連のコンテンツ及びポータルサイトの内容・構成・機能に関する検討に基づき、より使い易く信頼性の高い女性情報ポータルを再構築し、情報提供の充実を図る。
(2) WinetCASS(女性情報システム)の整備充実	WinetCASS*上で公開している女性情報CASS、HP-CASS、Winet-DB(データベース)(文献情報DB、女性関連施設DB、女性学・ジェンダー論関連科目DB、女性と男性に関する統計DB、子育てネットワークDB)の更新、充実を図る。 *Women's Information NETwork System とCross Access Search Systemの略
(3) WINET情報	女性・家族に関する文献情報、WinetCASS及び情報センター利用に関する情報をホームページから発信する。
(4) 遠隔情報発信事業	学習プログラムの普及を図るため、インターネットや衛星通信システム等により学習プログラムを発信する。

(3)ネットワーク支援

事業名	事業内容
(1) 女性関連施設等情報ネットワーク研究協議会	女性関連施設等における情報活用方法、情報機能の連携のあり方等について研究協議を行い、各施設・職員間の情報ネットワーク形成の推進を図る。 期間：平成18年2月6日(月)～7日(火) 1泊2日 対象：女性関連施設等の情報担当者60名

(4)資料の作成・配布

資料名	掲載内容・配布先	発行
(1) 「国立女性教育会館研究紀要」(第9号)	女性教育、家庭教育、女性学、女性情報に関する会館の調査研究を国内外に発表するとともに、公募論文を選考して掲載する。 テーマ「エンパワーメントのための生涯学習」 配布先：国内・国外の関係大学図書館、女性関連施設、及び女性団体等	年1回 平成17年8月
(2) NWEK Newsletter	NWEKの活動及び最新の日本女性の現状について英文で海外に紹介する。 配布先：海外の女性問題担当行政機関、女性センター及び女性団体、国際機関等	年2回 平成17年9月 平成18年3月
(3) 「ヌエック(国立女性教育会館)主催事業実施報告書」	16年度に実施した研修・交流・調査研究・情報事業の実施概要。 配布先：各都道府県教育委員会、女性関連施設及び女性団体その他の関係機関等	年1回 平成17年5月

事業の実施報告

第3回実験プログラム「^{み か じま よし こ}三ヶ島葎子の生き方」

「三ヶ島葎子の生き方～葎子の世界を学び、オオムラサキの里に遊ぶ～」が2月4日(金)、5日(土)に開催されました。

葎子は埼玉県所沢市出身の歌人。病や貧困、家庭の厳しい問題を抱えながら豊かな精神世界を歌にし、明治から大正時代にかけて「女子文壇」「青鞥」「アララギ」他に6千首以上を残しました。

初日は歌人の秋山佐和子さんの講演で「三ヶ島葎子の生き方」。「短歌を生きる杖」とした葎子について、その生涯、人間関係、歌の世界を暖かな視点をもって講演されました。

秋山さんは、葎子の研究をまとめた「歌ひつくさばゆるされむかも：歌人三ヶ島葎子の生涯」で第1回日本歌人クラブ評論賞を受賞しています。

2日目は、所沢市教育委員会の関谷英雄氏による「三ヶ島葎子資料室の資料あれこれ」。同市にある資料室の設立経緯や所蔵資料が、ビデオや写真をまじえて紹介されました。続いて、嵐山町教育委員会の植木弘氏と「オオムラサキの森活動センター」の浅見弘氏の案内で、会館周辺の自然散策を行いました。普段閉じられている稻荷塚古墳の中やエノキの枯れ葉の裏に眠るオオムラサキの幼虫も見ることが出来、童心にかえって楽しんだひとときでした。



講演会の様子

女性の教育推進セミナー

開発途上国の女子教育の問題に携わっている行政官を対象に、2月13日(日)～3月13日(日)までの4週間にわたり、「女性の教育推進セミナー」を開催しました。このセミナーは、国際協力機構(JICA)からの委託を受け、会館が平成13年度から毎年行ってきたもので、今年度は10カ国(ブルキナファソ、カメルーン、タンザニア、ケニア、モリタニア、メキシコ、グアテマラ、イラク、ラオス、パプアニューギニア、)から10名の研修員が参加しました。

研修員たちは、日本の教育制度や女子教育に関する講義・討議への参加、カントリーレポートの発表、小中学校・女子校の視察などを通じて、研修成果を自国における教育改革に生かすために、女子教育を阻害する要因を把握し、具体的な教育政策・方策を立案することを目的としたアクションプラン(行動計画)を作成しました。

また、会館ボランティアや嵐山町の協力で、ホームビジットやお茶会・着付けを体験することができ、研修員にとって日本の伝統文化に直接触れるよい機会となりました。



アフリカの研修員に
折り鶴の折り方を教える広島の中학생たち

事業の実施報告

カンボジア・ジェンダー統計の分析研修



研修生のソヴァンニーさん、ソティアさん、サルサットさん、キアムさん（左から）

平成13年度から、ヌエックでは「ジェンダー統計に関する調査研究プロジェクト」を実施しています。日本の政府統計をジェンダーに敏感な視点から分析し、ヌエックミニ統計集「日本の女性と男性」や『男女共同参画統計データブックー日本の男性と女性2003』（ぎょうせい）として刊行しています。

この調査研究の成果をさらに研修に応用して、「カンボジア・ジェンダー統計の分析」研修を行いました（JICAからの委託）。カンボジアの女性省、農林水産省、計画省統計研究所の計4人の

職員が来日し、5週間にわたって研修を受けました。ジェンダー統計に関する基礎知識を学んだ上で、カンボジアの政府統計をジェンダーに敏感な視点から分析し、A4版三つ折り（カラー）の英文リーフレットを完成させました。

カンボジアにおけるジェンダー問題のエッセンスを、リーフレットという限られたスペースの中に効率的に表示するという実習を通じて、研修生のひとりひとりがジェンダーに関する理解を深めたようです。この研修は、今後3年間実施する予定です。

情報ネットワーク

「女性情報レファレンス事例集」に新しい事例を追加しました



「女性情報レファレンス事例集」は、女性関連施設の情報担当者が現場で受ける質問とその調べ方・答え方をデータベース化した、会館の女性情報データベースの中でもひとときユニークなものです。16年度は36事例を追加し、136事例となりました。今回新しく公開した事例には、“定年後の男性の地域との関わり方について、男女共同参画の視点で勉強会をひらくための資料を探しています”や、“日本では、女性研究者はその数も処遇も諸外国に比して低いようだが、なぜなのでしょう”などがあり、

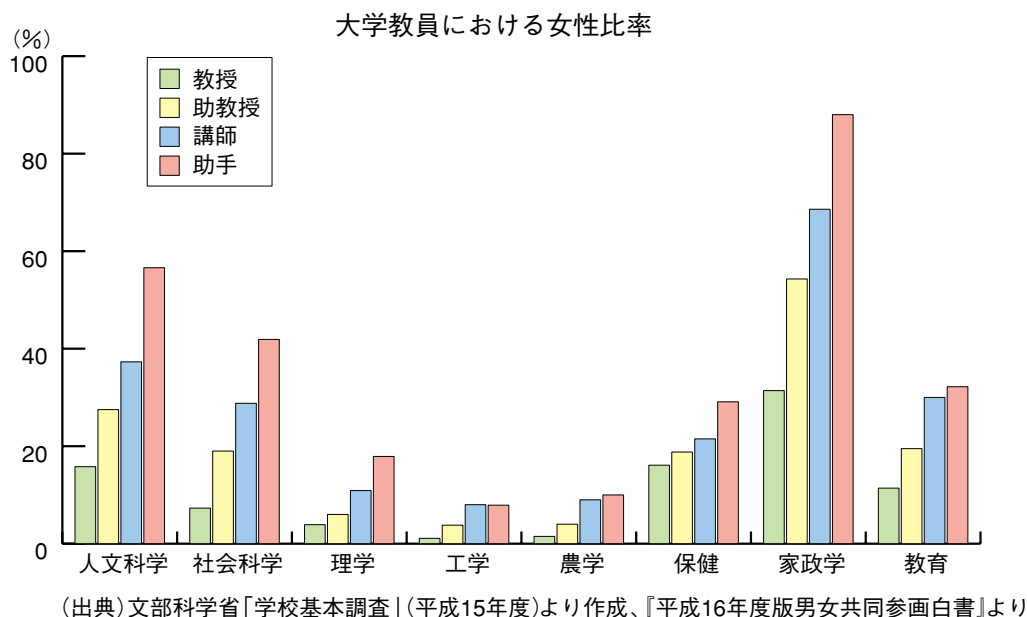
男女共同参画社会実現へのさまざまなステップを反映しています。事例の作成には、全国の女性関連施設から8名の情報担当者にサポートメンバーとしてご協力いただきました。情報担当者のネットワークから生まれたデータベースですが、女性情報に関心のあるすべての方にご活用いただける情報源です。

(<http://winet.nwec.jp/tictconsult/>)

ことばの基礎知識

科学技術分野への女性の進出

青少年の科学技術離れ、理科離れが指摘されその対策を講じることが大きな課題となっています。ところで、この課題となっている科学技術分野に女性はどのくらい進出しているのでしょうか。総務省統計局「科学技術研究調査報告」によれば科学技術分野の女性研究者数は9万6100人、研究者全体に占める割合は11.6%です（平成16年3月）。過去と比較すれば増加傾向にありますがそれでもやっと1割をこえた程度、欧米と比べても低い数字にとどまっています。女性の大学進学率も上昇し、平成16年は32.5%で男性の49.3%に比較すればまだまだ男女格差は解消していませんが、一貫して増加の傾向で3人に1人は大学で学ぶようになってきました。そして研究を続け研究者や大学の教員になる女性も増加しています。ところが分野によって女性の占める割合は大きく異なっています。分野別にみた大学教員における女性比率を見ると、家政学、人文科学、社会科学などに比べ科学技術分野である理学、工学、農学における女性が進出の度合いは極めて低いことがわかります。では女性は科学技術に向いていないのでしょうか。何をもって「向いている」といえるのかは簡単ではありませんが、例えば、昨年発表された経済協力開発機構（OECD）の学習到達度調査（主要41ヶ国地域の15歳児の生徒を対象に2003年調査）によれば科学的リテラシーは6点差で男子が優位であるが数学的リテラシー、問題解決能力に統計的な有意差はないという結果が出ています。前回の調査では女子の科学的リテラシーが男子を上回っていました。女性は科学技術に向いていないとはいえないようです。女性の持っている科学技術の力を活かせる社会を作っていくことが必要ではないでしょうか。



ボランティアコーナー

昨年度から会館ボランティア活動受入実施要領が新しくなり、新規登録及び昨年度末に登録を行った既登録者のボランティア説明会と研修・面談を実施しています。今年度からは、会館職員やボランティア同士の交流をより充実したものとするため、懇談会を併せて実施することしました。会館ボランティア活動に興味のある方は、事業課ボランティア担当まで御連絡ください。

お知らせ

●寄附金受け入れの報告

寄附者（敬称略）	寄附月	寄附の目的
大野 曜	平成17年2月	広報活動のため

ヌエックではより充実した業務遂行のための経費に充てるため、寄附金を含む外部資金を受け入れております。今後とも事業の充実、運営の改善及びサービスの向上に努めてまいりますので、皆様方の暖かいお篤志を賜りますようお願い申し上げます。

◎寄附金に対する問い合わせは総務課へ

一定の金額までの寄附金については、法人及び個人の場合ともに税法の規定により所得から控除されます。

●施設案内

ミーティングルーム（50人用）が明るく、使いやすくなりました。

壁紙・照明等の内装が新しくなり、昼間はもちろんのこと、夜間の研修や交流にもより一層ご活用いただけます。また、2人掛けの長机（可動式）25台と椅子50脚を揃え、講義やグループ討議など様々な学習形態に対応できます。フロントで視聴覚機器を貸出しておりますので、お気軽にお尋ねください。



●利用案内

※休館日（平成17年4月～12月）

4月 1日(金)・18日(月)	5月9日(月)・16日(月)
6月 6日(月)・20日(月)	7月4日(月)・19日(火)
8月 1日(月)・15日(月)	9月5日(月)・20日(火)
10月 3日(月)・17日(月)	11月7日(月)・21日(月)
12月12日(月)・19日(月)	

注) ①休館日前日の宿泊と当日の朝食はご利用になれます。

②電話・FAX・e-mailによる申し込みの受付や利用相談なども行っています。

③会館ホームページではいつでも施設の空き状況等がご覧になれます。

申込専用電話：0493-62-6723 ファクス：0493-62-6720

ホームページ：http://www.nwec.jp/

●主な利用団体（平成17年2月～年3月）

2月12日	埼玉県スポーツ指導者研修会
14日～17日	全国友の会中央部
18日	平成16年度第2回公立小・中学校等教育指導校長研究協議会
29日～20日	埼玉県立歴史資料館（シンポジウム「埼玉の戦国時代」）
3月 5日～ 6日	埼玉県学童保育連絡協議会（学童保育実践交流会）
15日～19日	政策・情報学生交流会

●展示コーナー

「少子化と男女共同参画社会」

少子化の原因は女性の社会進出か。それとも、男女共同参画社会が実現すれば子どもが増えるのか。さまざまな視点から少子化問題を考えるための資料を、1階エントランスホールに展示中ですので、是非ご覧ください。

*展示資料例

「少子化社会の家族と福祉」

「少子化対策に関する政策評価書」

「子どもが減って何が悪い！」

「日本人と少子化」



編集後記

- 新年度が始まりました。新しく学生になった人や社会に出た人を電車内や街中で見かけます。何となく初々しい感じがするのですね。希望に燃えた新人の門出にエールを送ります。
- 会館でも外部との人事交流で大幅な異動がありました。少数精鋭でこれまで以上に使命感を持って仕事をしております。
- 会館敷地内でも梅、ハクモクレン、コブシ、ツバキ、桜など次々に開花しました。開館当時、1年中何かの花が見られるように植樹をしたと聞いています。四季折々変化に富んだ風情を楽しみに会館においでいただければと思います。

ヌエックニュース第109号

平成17年5月1日発行

編集発行 国立女性教育会館

〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷728

☎0493-62-6711（代表）

FAX.62-6722（総務課） 62-6720（事業課）
62-6721（情報課） 62-9034（研究国際室）

ホームページURL http://www.nwec.jp/
E-mail webmaster@nwec.jp

訂正とお詫び

10ページの「寄附金受け入れの報告」に誤りがありました。

寄附者の正しい表記は「大野さんご苦労さんの会」でした。

訂正するとともに、お詫び申し上げます。